



研究テーマ：『風土記』を中心とした古代日本文学の研究、『豊後国風土記』の基礎的研究

研究者： 衛藤 恵理香

ETOH Erika

(経営経済学部 助教)

#### 【研究・開発の目的】

- (1) 文学・語学・表現学・文献学・考古学・民俗学等による複合的観点から『風土記』テキストの校訂および『風土記』に記された土地を同定する。
- (2) 古代日本文学における中国文献の受容実態を把握し、表現特質を解明する。
- (3) 古代日本文学における表現性への探究を通して、テキストの記述を支える共通基盤をマクロ的に統合し、自然や社会と人間との関係を根本的に見直し、現代社会の諸問題に応える。

#### 【研究・開発のきっかけ】

近年、ますます深刻化する社会問題である貧困や差別、災害や戦争、地球環境など、グローバル化する現代社会の諸問題に応える新たな文理融合的研究が求められている。そこで重要な資料が『風土記』である。『風土記』は、今から約1300年前の奈良時代に成立した日本最古の地誌であり、古代日本の姿を捉えることができる資料が『風土記』である。『風土記』の内容は、古代における地域の特質、人々の経験や記憶と強く結びつく地名や伝承、慣習や文化といった土地にまつわる様々なカテゴリー、ジャンルにわたる。そのように多岐にわたる豊かな内容を有しているため、それらを読み解くためには、文学、語学、文献学、考古学、民俗学の各分野を横断する複合的観点が必要となる。ゆえに、複合的観点からの『風土記』の基礎的研究を通して、古代日本の土地や自然、社会をめぐる人々の共通基盤がどのように展開したのかを明らかにすることは、古代日本の人々と社会、人々と自然などとの関係を根本的に見直すことにつながる。さらに、人と自然や社会とのあり方を見直すことは、今後、世界規模で深刻化する現代社会の諸問題に応え、豊かな社会発展の基盤となるものと言える。

#### 【研究・開発の概要】

文学、語学、文献学、考古学、民俗学の各分野を横断する複合的観点から古代日本文学における中国文献の受容実態を把握し、表現特質の解明を試みる。そのうえで、テキストの記述を支える古代日本における共通基盤を解明する。古代の人々における世界の把握のあり方と表現性への探究を通して、社会と人間との関係を根本的に見直し、グローバル化する現代社会の諸問題に応えるために社会との関わりから文学を歴史的に意義づけていく。

#### 【研究・開発の特色】

##### ・地域密着型研究

文学、語学、文献学、民俗学の複合的観点から、特に最新の考古学的発見をふまえたうえで、『風土記』に記された土地の所在地を明らかにし、その成果を地域社会に還元する。特に大分県において『豊後国風土記』に関する地域密着型の研究を行うことによって、伝統文化を継承しながら、地域の歴史資料を用いた魅力ある町づくりをはじめとした地域振興や教育文化活動、生涯学習等の発展を目指している。

#### 【今後の課題】

『風土記』を中心とした古代日本文学のテキストの記述を支える共通基盤について明らかにする。具体的な方法としては、まず、『風土記』に記された各地の名所や景勝地をはじめとした地名について、同時代の資料である『萬葉集』との比較分析をし、日本の伝統的な自然観をはじめとした土地に関する共通基盤を解明する。社会と人間との関係を根本的に見直し、近年、ますます深刻化する現代社会の諸問題に取り組み、社会との関わりから文学を歴史的に意義づけていく新たな学術研究を目指したい。

#### 【その他の情報】

主な社会貢献活動

- ・園田学園女子大学・園田学園女子大学短期大学部 社会連携推進センター 生涯学習ユニット 公開講座、講師（担当講座「古典文学入門」）
- ・認定NPO法人大阪府高齢者大学校、講師（担当講座「文芸を楽しく学ぶ科」、「総合文化を身につける科」）

#### 【地域・企業へのメッセージ】

地域密着型の研究を行い、その研究成果を地域社会に還元することを通して、伝統文化を継承しながら、地域の歴史資料を用いた魅力ある町づくりをはじめとした地域振興や教育文化活動、生涯学習等の発展を目指しています。